

## ■米国：電気事業者の M&A は今後も堅調に継続とムーディーズ社が予測

2013年10月30日付の業界誌によると、信用格付け機関のムーディーズ社は、米国電気事業者の合併買収（M&A）について、大手および中小事業者とも今後数年間、堅調なペースで継続すると予測している。省エネやエネルギー消費効率の向上、分散型電源の増大、リーマンショックに端を発した景気低迷などにより電力需要の伸びは鈍化傾向にあり、その打開策として一部電気事業者は全米平均を上回るペースで需要が伸びている地域の電気事業者を対象に M&A の可能性をさぐっている。多くの電気事業者は規制事業を拡大してキャッシュフローの安定性と予見可能性を高めるとともに、運営効率を最大化し、運転保守費用をより広い需要家ベースに拡散しようとしている。ミッドアメリカン・エナジー・ホールディングス、デューク・エナジー、エクセロンといった大手事業者は買収によって事業の拡張、多様化といった目標を達成する可能性が高いが、中小事業者は“食うか食われるか”の戦略を採用している。中小事業者の M&A 候補としては、ベクトレン・ユーティリティ・ホールディングス、クレコ・パワー、エンパイア・ディストリクト・エレクトリック、UNS エナジーなどを挙げている。